



すゝめ

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ
コミュニケーションマガジン

K E I O
UNIVERSITY
HOSPITAL
.....
Communication
Magazine

Vol. 19
June 2023

ご自由に
お持ちください



最新の技術と最適な治療で脳を守る

脳神経外科では、さまざまな脳の病気から患者さんを守るため、最先端かつ高度な技術を駆使して、個々の患者さんにとって最適な治療、すなわち最も安全かつ有効な治療を行います。

広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える福澤諭吉の大ベストセラー『学問のすゝめ』に因んでいます。

高度な技術と最適な治療で脳を守る プロフェッショナル集団



とだ まさひろ
脳神経外科 医師 戸田 正博

脳はヒトの活動において最も重要な臓器の一つです。その脳の手術を担当する唯一の診療科が脳神経外科です。我々は、脳血管障害、脳腫瘍、頭部外傷、小児神経疾患、機能的脳疾患などさまざまな脳の病気に対して、24時間365日、救急医療まで対応するプロフェッショナル集団です。

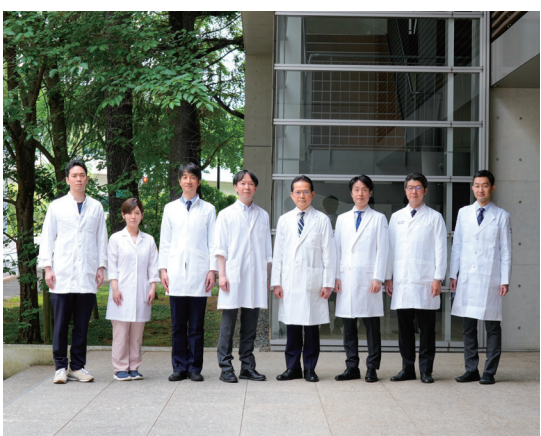
最近の医学の進歩に伴って、言語・記憶・情動・意識など、高次脳機能を構成する神経ネットワークが解明され、より安全な手術が可能となり、さらに治療不可能であった病気を治す新たな治療法の開発も進んでいます。神経科学の発展と医療技術の進化とが両輪となって脳神経外科の治療は大きく進歩しているのです。

慶應義塾大学病院では、治療困難な脳疾患の患者さんを多く診療しており、頭蓋底脳腫瘍の治療では世界をリードする実績を誇っています。とくに最先端の神経内視鏡手術を駆使することにより、no man's landと言われる頭蓋底部位に対して、低侵襲かつ精度の高い手術を提供していま



研究も積極的に行っています。腫瘍が多発して、手術では治療困難な神経線維腫症Ⅱ型に対して、ワクチン療法を開発しました。現在、臨床研究の段階ですが、多くの患者さんで腫瘍の増大が抑制されています。国内のみならず海外の患者さんに対しても、新たな治療法として届けられるよう、全力で取り組んでいます。

最先端かつ高度な技術を駆使して、個々の患者さんにとって最適な治療、すなわち最も安全かつ有効な方法を選択して治療にあたります。



す。これまで治療を諦めていた患者さんが、術後に笑顔で帰宅される時、日頃の疲れも吹き飛び、我々も心から元気になります。悪性脳腫瘍に対しては、覚醒下手術、光線力学的治療、最新の放射線治療、さらに遺伝子解析に基づく薬物療法などを組み合わせ、個々の患者さんに最適な治療を行います。また、脳血管内手術の発展は著しく、これまで開頭手術で行われていた多くの脳血管疾患に対して、最先端のカテーテル手術を行い、早い社会復帰を実現しています。

さらに我々は、新たな治療法の開発

診療連携チームによる 質の高い医療提供

頭蓋底の疾患は、複雑な場所に発生した稀な病気です。慶應義塾大学病院の頭蓋底センターでは、豊富な経験と最先端の頭蓋底外科技術を駆使して、すべての頭蓋底疾患に対応できる診療体制を整えています。脳神経外科、耳鼻咽喉科、形成外科、眼科、歯科、口腔外科、内分泌内科、および放射線科が緊密に連携し、他の病院で治療不可能と言われた患者さんに対しても、チームの総力を結集して、患者さんにとって最適な治療を提供します。

脳卒中の治療では、脳神経外科と神経内科を中心に、薬物治療、血管内治療、さらに外科手術を行います。が、迅速かつ安全に患者さんを受け入れるため、初期対応を行う救急科、画像診断を担当する放射線科との連携が重要です。また、入院後早期からの

リハビリテーションや脳卒中に併発する精神疾患の治療に取り組むため、リハビリテーション科、精神・神経科の協力が必須です。慶應義塾大学病院脳卒中センターでは、神経内科および脳神経外科に加えて、これらの診療科と緊密に連携し、質の高い脳卒中診療を行っています。





頭頸部がん診療チーム

耳鼻咽喉科（頭頸部外科）

頭頸部とは鎖骨の上から頭蓋底までの領域を指し、呼吸・発声・嚥下・構音など生きるために重要な役割を担っています。頭頸部に発生する悪性腫瘍に對しては、それらの機能をいかに温存するか、ということを考えて治療を行う必要があります。

頭頸部がんに対する放射線治療は、形態的な変化は少ないものの、副作用により発声や嚥下の機能低下を来すことがあります。治療が安全に行われるよう、我々はチームで治療にあたっています。

治療方針の決定はカンサードボードにて行います。耳鼻咽喉科、放射線治療科、歯科・口腔外科、腫瘍内科の医師が集まり症例ごとの治療方針を検討しています。

治療開始前には、看護師や薬剤師より入院生活や、使用する薬剤についての説明を行い、患者さんの不安を和らげ、疑問を解消していきます。また、一般消化器外科の専門医師による重複癌のチェックのための上部消化管内視鏡検査や、歯科・口腔外科での口腔ケアを受けて頂きます。これらは全て、治療を円滑に進めるための重要な準備です。

治療中も歯科・口腔外科による口腔



耳鼻咽喉科嚥下チーム

ケアは継続されます。また口やのどに粘膜炎という放射線による炎症が起これば、強い痛みで食事摂取が困難になる場合もしばしば見られます。必要に応じて院内の緩和ケアチームに診療を依頼し、積極的な疼痛コントロールを行います。

治療後、嚥下機能が落ちてしまったら、退院するにあたって住環境を整える必要が生じる場合があります。慶應病院では、リハビリテーション科の言語聴覚士による嚥下訓練や、医療連携部による退院調整など各部署の連携により、治療後の患者さんの社会復帰をチームで支援いたします。

耳鼻咽喉科嚥下チーム

頭頸部がんに対する
チーム医療

神経内科はパーキンソン病、重症筋無力症、多発性硬化症、頭痛など、神経機能に関わる疾患を担当しますが脳卒中もそのうちの一つです。脳卒中には脳梗塞、脳出血、そしてくも膜下出血が含まれます。脳卒中の原因や治療は多岐にわたるため、脳神経外科、救急科、リハビリテーション科、放射線科、精神・神経科など各領域の専門医が協力して診療を行っています。そのなかで神経内科はとくに、脳梗塞に対する血栓溶解療法（血栓をとく治療）や、血栓回収療法（カテーテルで血栓を取り除く治療）、そして薬剤を用いた再発予防を中心に担当しています。また、脳卒中の患者さんに麻痺などの症状がある場合は、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士による早期からのリハビリテーションや、看護師・ソーシャルワーカー・地域連携担当者による支援を通じて、社会復帰、療養環境整備、転院調整や地元医療機関への紹介などを円滑に進める体制を整えています。

脳卒中の予防は、禁煙や飲酒の節制など生活習慣の改善とともに、血圧管理、コレステロール値の管理、脱水



カンファレンスの様子

神経内科医からみた

脳卒中診療

脳卒中専門医を中心に多職種で治療にあたる



神経内科（脳卒中診療チーム）



「ロボット支援手術センター」開設

ロボット支援手術は、患者さんの体に小さな穴を開けて行う、傷が小さな低侵襲手術です。そのため、開胸手術や開腹手術に比べて手術痕がほとんど目立たず、より少ない出血量で術後の痛みも軽くなります。術者は手術台の隣の操作コクピットから、術野の3D画像を見ながら、ロボットアームを遠隔操作します。術者の精密な手の動きを再現しつつ、術者の手ぶれも防止されるため、従来の腹腔鏡下手術よりも精密な操作が可能となります。このようにロボット支援手術には多くのメリットがあるため、世界中で急速に普及しています。当院でも、泌尿器科、一般・消化器外科、産婦人科、心臓血管外科、耳鼻咽喉科、呼吸器外科、整形外科でロボット支援手術を行っております。ロボットの長所を最大限活かしかつ安全に手術を遂行する



da Vinci (ダ ヴインチ)

には、各診療科および麻酔管理を行う麻酔科、また手術室看護師および臨床工学技士も交えての密な横の連携が必須です。そこで患者さんに最善のロボット支援手術を提供できるよう、2023年4月より「ロボット支援手術センター」を開設し、診療科横断的に運営しております。当院には、主に体幹部手術に用いる「da Vinci」と「hinotori」、また整形外科手術に用いる「Cori」という手術支援ロボットがあります。各疾患、術式に応じて、それぞれのロボットの利点および特徴を活かし、手術支援に用いています。



hinotori (ヒノトリ)

医療チームの一員 ナースアシスタントの活躍

慶應義塾大学病院では看護系職員が約1,300名おり、そのうちナースアシスタントが約100名勤務しています。病棟では患者さんへの食事の配下膳や検査室への移送をはじめ、時には洗面介助や食事の介助、シャワー介助や排泄介助など患者さんと直接関わる業務を看護師と一緒にを行っています。その他にも患者さんのベッド周囲の清掃や整理整頓、シーツ交換、検体や輸血、薬品等の搬送、病棟で行われる処置



の準備から片付け等バックヤードの見えない場所でも活躍しています。また2019年より専任の夜間ナースアシスタントもあり、夜間帯の看護師の業務負担を軽減するだけでなく、看護チームで連携し患者さんに安全で安心な医療を提供し続けられるよう、患者さんに最も身近な存在として療養生活を支援しております。

そして、今年度も新しい仲間が加わりました。看護部ではナースアシスタントの成長を支援するため、業務の内容と技術の習得時期を目安に、実技研修や教育動画を活用しながら、安全に患者さんへのケアが実施できることを目標としたプログラムが組まれています。それに加えて毎年、年に3回は医療安全や感染対策に関する研修を全員が受講し、常にスキルアップをしています。

このコロナ禍でも他の医療スタッフと同じように手指衛生には人一倍気を配り、患者さんに不安を与え



ないように医療チームの一員として働いております。病院で勤務しようにと思った動機や、年齢、これまでの社会経験などの背景はさまざまですが、患者さんのために、医療チームの一員として、頑張っております。このように患者さんへの看護を行う上でとても重要な役割を担っています。



Information

患者サロン

がん相談支援センターでは「患者サロン」を定期的に開催しています。頑張っていること、工夫していることなど皆さんと語り合いませんか？皆さまのご参加をお待ちしております。

【2023年度開催予定】

第2回 10月14日(土)

第3回 12月

第4回 2024年3月

▶最新の情報はこちらのQRコードからご確認ください。



【お問い合わせ】

慶應義塾大学病院 がん相談支援センター

電話:03-5363-3285

WHILL 愛称募集

2020年9月に当初2台で屋内運行を開始した車いす型自動運転サービスWHILLは、現在6台まで増え、屋外ルートも追加となりました。これまでにみなさまに親しみを持ってご利用いただけるよう、シンプルかつ愛着のあるネーミング(愛称)を募集します。奮ってご応募ください。

締切:2023年8月31日(木)

▶こちらのQRコードよりご応募ください。



がん患者さんと子どものサポートプログラム 「Webキッズ探検隊」参加者募集

Webキッズ探検隊は、Webを通して病院の中を見学し、各部署のスタッフと交流する楽しいプログラムです。ご家族がどのようなところでがんの治療をしているのか、がんという病気や治療について正しく知ること、子どもたちの不安や心配を軽減することを目的としています。ぜひご参加ください。

日程:2023年9月9日(土)15時00分~16時30分

対象:ご家族(両親、きょうだい、祖父母)ががんの治療を受けていて、家族ががんであることの説明を受けている「小学生・幼稚園年長のお子さま」

※プログラムの詳細は慶應病院ウェブサイトでご案内しています。

【主催】がんの親をもつ子どもサポートチーム
Supporting Kids of Parents with Cancer(通称:SKIP KEIO)



お申し込み・
お問い合わせ

がん相談支援センター

03-5363-3285(直通)

詳しくはこちらから▶

予防医療センターの拡張・移転について

予防医療センターは、2023年秋に森ビル株式会社が手掛ける麻布台ヒルズ森JPタワー5階に拡張・移転をいたします。移転によりフロア面積が拡大するため受診枠が増え、予約待ちの数を減らすことが可能になると共に、プライバシーに配慮した検査環境を提供することが可能となります。

現予防医療センター(信濃町)の検査終了日は10月20日(金)、新しい予防医療センター(麻布台ヒルズ)の検査開始日は11月6日(月)を予定しています。



最新の情報は、移転後の予防医療センター専用ウェブサイトをご覧ください。▲

アンケートに ご協力ください

こちらのQRコードからアンケートにアクセスしていただき、
広報誌すゝめで読んでみたい記事など、ぜひご意見をお聞かせください。



COLUMN

病院機能評価の認定を受けました



病院機能評価受審委員会メンバー

このたび当院は、日本医療機能評価機構による病院機能評価の更新認定を受けました。2017年以来2回目ですが、今回は特定機能病院に求められる最高水準の「一般病院3」という種別を受審しました。昨年9月に審査員9名による3日間の訪問審査を受け、89の評価項目全てにおいて認定基準に達するという評価をいただきました。多職種協働や外来診療など、他の病院の模範になりうる高評価の項目もありました。認定に向けて、当院は、医療安全、感染対策、患者サービス、検査・治療の精度管理、医療連携など、全部署をあげて質向上に取り組んできました。今回の認定に甘んじることなく、これからも患者さん目線の良質な医療を提供する努力を続けてまいります。今後ともよろしく願っています。認定証など詳細は病院ホームページもご参照ください。

〈受付時間・休診日〉

外来診療時間 8時40分~12時00分、13時00分~16時00分

面会時間 ※面会は医療上必要な場合に制限させていただいております。
詳しくは病院のウェブサイトをご覧ください。

休診日 日曜日、第1・3土曜日/国民の祝日・休日/
年末年始(12月30日~1月4日)/慶應義塾の休日(1月10日)

※2023年9月18日(月・祝)、2024年1月6日(土)、2024年1月10日(水)、
2024年2月12日(月・祝)は外来診療日です。

〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと診療担当医表がご覧になれます。
なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

